過去の冬日・真冬日の地点数データを利用する際の留意点

2024年9月作成

統計方法の異なる期間の冬日・真冬日の地点数を比較することはできません。
1979年以降における日最低・最高気温の統計方法は下表のとおりです。
統計方法の違いにより以下のことが生じますのでご留意ください。
・③の統計方法では冬日となる日でも、②や①の統計方法では冬日とならない場合等があります。（参考資料１）
・③の統計方法では真冬日とならない日でも、②や①の統計方法では真冬日となる場合等があります。（参考資料２）

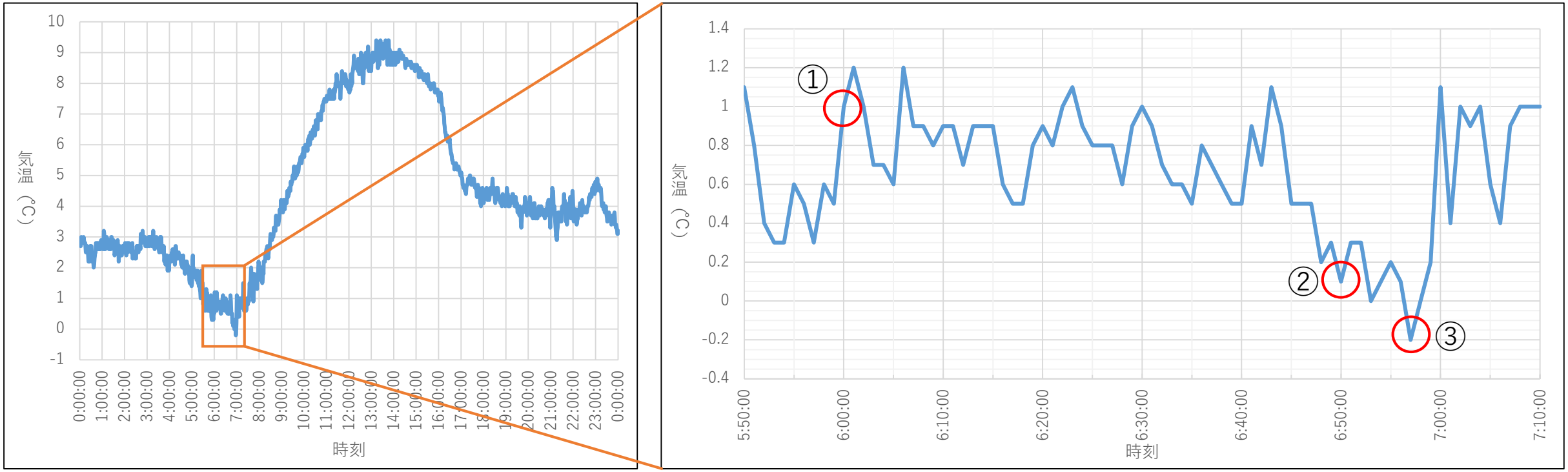
	統計値	統計方法	期間
①	日最低･最高気温	毎正時の極値	1979年 ～ 2002年12月31日
②	日最低･最高気温	毎10分値の極値	2003年1月1日 ～ アメダスの観測方法変更日(2008･2009年頃)※1
③	日最低･最高気温	任意の時分の極値	アメダスの観測方法変更日 ～ 現在

※1 アメダスの観測方法変更日は観測所毎に異なります。詳細は下記ページをご参照ください。
https://www.data.jma.go.jp/stats/data/mdrr/man/new_amedas.htm

※ 地上気象観測を実施している地点については、1979年から現在まで、任意の時分の極値で求めた日最低・最高気温を用いており、上記の統計方法の変更には該当しません。
https://www.data.jma.go.jp/stats/data/mdrr/chiten/sindex2.html

（参考資料１）統計方法の違いによる冬日の判定が異なる例

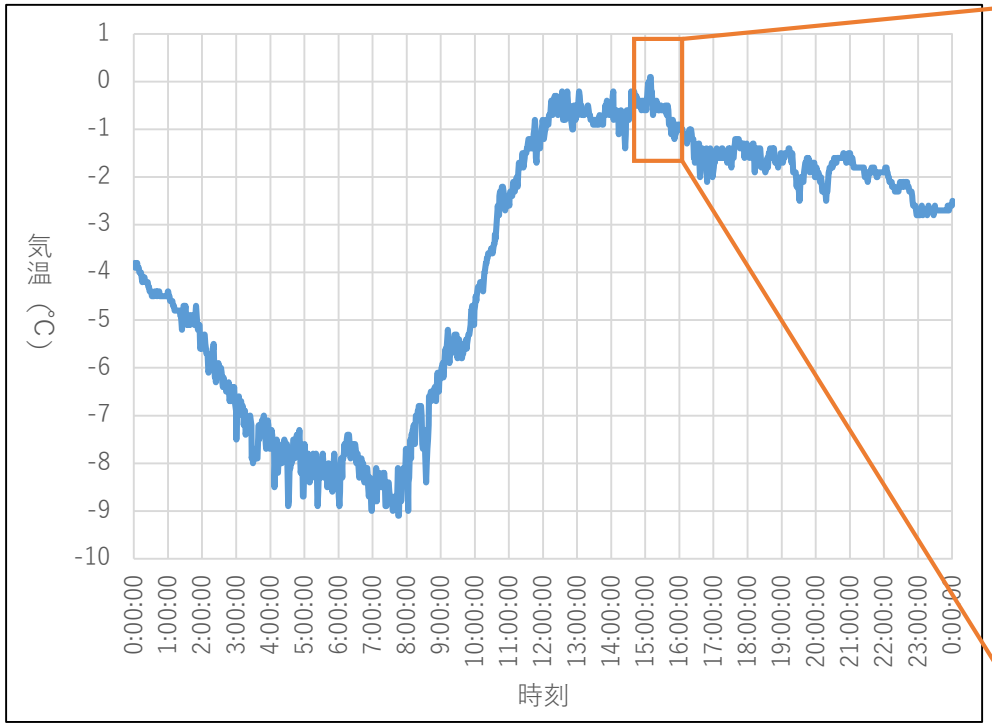
統計方法の違いにより冬日の判定が異なる日の気温データの例を示します。
同じデータであっても、統計方法の違いにより冬日の判定が異なることがあります。
このため、統計方法の異なる期間の冬日の地点数を比較することはできません。

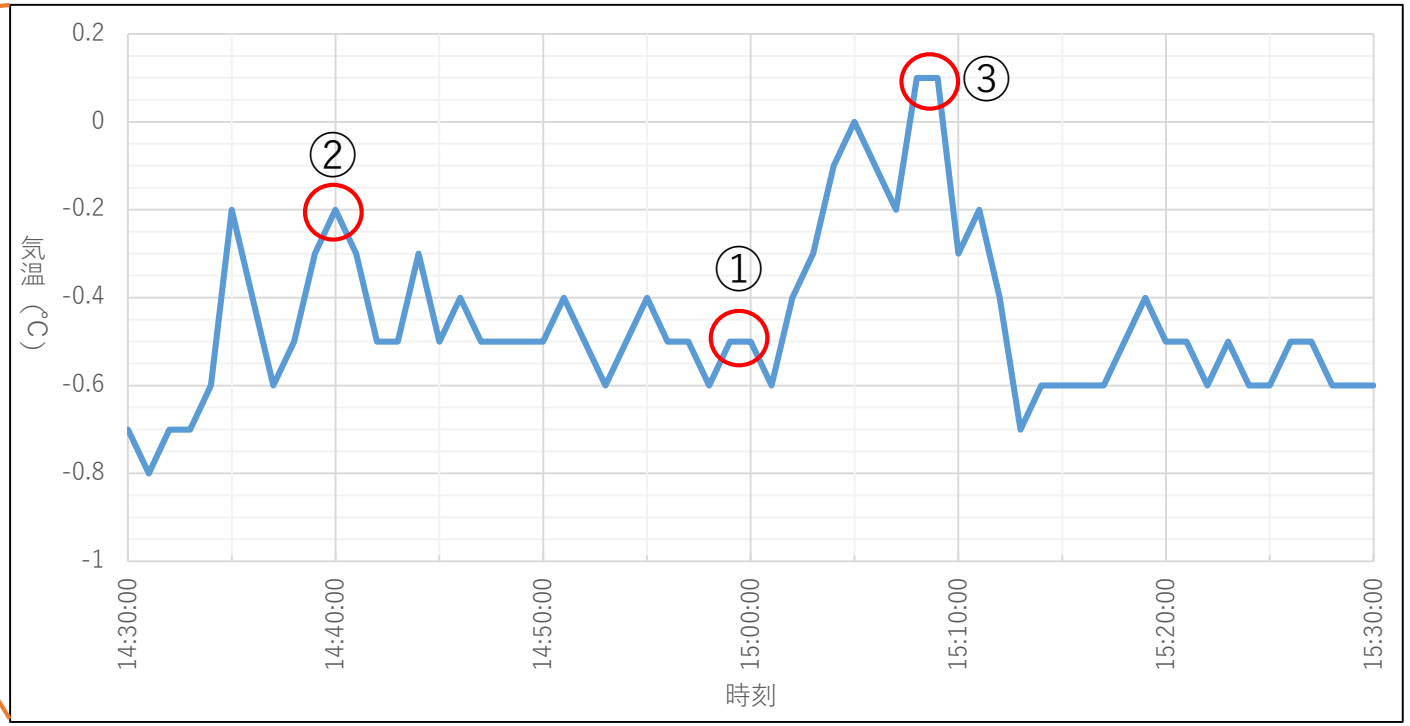


	統計方法	日最低気温	観測時刻	冬日の判定
①	毎正時の極値	1.0℃	6:00	冬日ではない
②	毎10分値の極値	0.1℃	6:50	冬日ではない
③	任意の時分の極値	-0.2℃	6:57	冬日となる

（参考資料２）統計方法の違いによる真冬日の判定が異なる例

統計方法の違いにより真冬日の判定が異なる日の気温データの例を示します。
同じデータであっても、統計方法の違いにより真冬日の判定が異なることがあります。
このため、統計方法の異なる期間の真冬日の地点数を比較することはできません。





	統計方法	日最高気温	観測時刻	真冬日の判定
①	毎正時の極値	-0.5℃	15:00	真冬日となる
②	毎10分値の極値	-0.2℃	14:40	真冬日となる
③	任意の時分の極値	0.1℃	15:09	真冬日ではない